

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (望ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	令和4年2月18日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の状況ではありますが、別海・西春別・釧路の3事業所全体で予防対策に務め、ご入居様、ご家族様に安心安全をご提供出来ますように取り組んでおります。ご家族様の面会などにおきましては引き続きリモート面会とさせて頂いており、ご家族様のご理解とご協力に感謝申し上げます。職員研修などはオンライン研修を踏まえて、各事業所の職員が同じ方向を目指せられるように努めております。火災や水害時を想定した避難誘導・対策・見直し・実際に実践を通し取り組んでおります。これからも、職員と共に、ご入居者様の安全、地域の皆様の安全とともに、信頼いただけるホーム作りに努めて参りたいと思っております。運営推進会議つきましても、コロナ禍の状況でもありますので、皆様にお集まりいただける機会は難しい状況ではありますが、各関係者の皆様、地域の皆様、ご家族の皆様にはご理解とご協力をいただき、書面での開催とさせて頂いて降ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、海沿いの静かな住宅街の中にある鉄骨造3階建てで、2階・3階をグループホームとして使用し、1階は多目的ホールとなっている。母体運営法人は根釧地区にグループホーム3事業所と小規模多機能ホーム1事業所を運営し、合同で会議などを行って事例を共有し質の向上に努めている。1階の多目的ホールを地域住民に開放したり、地域交流会も事業所で盆踊り等を行っていたが、現在はコロナ禍で自粛している。海が近く高い建物が無い場所の中、10m級の津波を想定した建物となっており、屋上避難には外階段を利用するが、地域住民には町内会を通じて一時避難場所として利用を呼びかけている。家族の面談はリモートで行っているが、慣れないことで戸惑う家族が多かった中で、遠くの家族はスマホで交流を行っている人もいる。事業所は地域社会との連携や地域貢献度も高い。また、家族からの信頼度も高く看取りのケースも多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが強がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践力が少しずつついてきてはおりますが、共有の面ではまだ足りない点もあり地域密着につきましてもより一層取り組みに努めております。しかし共有する力はまだ足りない点もありますので、実践に向け努めております。	管理者と全職員が理念について、現状にあった理念に作り変え、共有しながら実践に繋がっている。理念は玄関とフロアに掲示している。日々ケアの実践に繋がるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍前は、ホーム内駐車場にて盆踊り等で地域の皆様と楽しい時間を共有させていただいておりました。	町内会に加入している。町内会行事の盆踊りを事業所駐車場でいながら交流をしたり、防災訓練も一緒に行っていたが、今はコロナ禍で自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会のイベント等に場所等を提供させていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出場所等のアドバイス等受けサービスの向上に努めている。	家族会・町内会会長・民生委員・包括支援センター等の出席で行われていた運営推進会議はコロナ禍により書面会議で実施し、議事録を関係者に送付し意見や要望を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当の方と定期的な連絡を行っています。	市担当者とは運営状況等の報告や生活保護関連の相談など、電話やメール等で行い助言や情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けカンファレンスの際、話し合いなど実施しております。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。全職員が内部研修で学んだことや感じたことを復命し、身体拘束の対象となる具体的な行為を理解し、共通理解を図りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	インターネット動画のYouTube上で「演技身体拘束をどのな時に出るか」の動画を利用しながら、全職員が「職員の意識のスキルアップ」の向上を図り、ケアの実践に繋げていくことを期待したい。

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修と定期的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けることが難しい状況ではありましたが、今後に向け取り組んでいきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、締結などはなかったが、現状の説明には納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、要望は即座に対応している。	利用者の意見や要望は日常の関わり中からくみ取り、家族からは面会時・電話連絡時等に担当職員が意見・要望を聞き出し、それらを事業所で検討し事業運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等でまとめ実施しております。	管理者は、職員が率直に意見等を言いやすい雰囲気大切にしており、カンファレンス会議の中で意見や提案を聞いている。職員の心身について留意できるような個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等行い整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、ビジネスマナーの基礎研修を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の相互間の活動が難しい状況ではありましたが、サービスの質の向上に向け日々取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く信頼関係はできていると思われませんが、ご本人様の安心の確保に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に迅速に対応させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援計画、ケアプランの見直しを随時行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話から関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で少しとりづらい部分もありますが、関係性を築けるよう努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍であるため、支援させていただくことが難しい状況でした。	コロナ禍で友人や知人の面会は自粛しているが、訪問美容師については馴染みの関係継続を支援している。また、通院時には家族が対応しており、感染症予防を説明した上で、その帰りに買い物・食事など一緒に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、塗り絵、様々なレクから関わり合いが多く行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が切れた利用者様はおりませんが、相談・支援に際し務めさせていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思い、意向を把握し、可能な限り支援に努めております。	利用者同士の会話の中から、また、職員との会話の中で出る何気ない言葉から気付きノートに記録し、職員で共有しながら希望や意向を把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用について担当者会議などで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いたことを職員間で情報共有し周知・把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等日々の状況やご様子などを見ながら職員間共有し、まとめながら実施している。日程を決めた担当者介護を行っている。	利用者や家族から希望などを把握し職員で毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、6か月毎に計画を見直し、家族の同意を得ている。変化が生じた時は現状に即し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの確認を定期的な担当者会議を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最良の支援を常に探しながら多機能化に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しんでいただくことをメインに行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の構築に努めております。また、受診の内容を周知、実践に取り組んでおります。	入居前からのかかりつけ医への受診を、家族と協力しながら支援している。訪問診療は月2回あり、訪問看護師が定期的に来訪し、利用者の健康管理を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内では看護職員がいない状況ではありますが、定期的に、また、特変が会った時には訪問看護師に相談させていただいております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリー、カンファレンスなど関係作りを努めております。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を図りながら、医師からの指示にて看取りの契約を交わしチームでの支援に努めております。	終末期に向けて早い段階から利用者・家族と話し合い、書面で説明して同意を得ている。医療関係者・家族・職員が情報を共有し共にチームで終末期に向けた支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様に合わせた緊急マニュアルの設置準備を行っております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	カンファレンスの際、災害対策の資料に添って話し合いを行っております。	昼夜を想定した避難訓練を地域住民の協力で実施している。地震や水害時では事業所を避難場所として開放する案が出ている。また、冬季間の停電時にも対応できる備品の確保と水、食料の備品も備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況を把握し、お一人お一人の尊厳を尊重し、気分を損ねないことばがけを心掛けております。	職員は、常に利用者の訴えを優先し、言動を否定することなく、敬う気持ちで優しい言葉掛けを大切にしている。また、排泄や入浴時は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮して日々のケアに努めている。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大事に考え利用者様の一緒に考えた支援をさせていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が主役の生活構成、支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時にメイク等行ってもらうなど取り組んでおります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事援助を行って下さる利用者様が多いので生き生きしている。	利用者は職員と一緒に、野菜の皮むきやテーブル拭き、盛り付けなどを行っている。菜園の収穫物を使って、季節食を作り利用者と一緒に食事をしている。利用者の健康状態により刻み食・ミキサー食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事について勉強会を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医連携をとり行っている。 オーラルフレイルを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	提携の医師と連携して行っております。 データ採取からパターンの把握分析を行っている。また、カンファレンスでの話し合いで状況を把握し、一人一人に合った取り組みを実施しております。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。下着や衛生用品の使用は随時検討している。	

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、薬局の連携。 食事の管理、生活サイクルをベースに予防、予測している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴について安全、安楽な支援を行っております。	入浴は週2回基本を目安に、利用者の状態に合わせて清潔保持に配慮している。利用者の希望により、足浴やシャワー浴も行っている。入浴を拒否する人には無理強いをしないで、時間をずらしたり、曜日を変更するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠環境の見直し、リラクゼーションを考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力の元努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に楽しみを探している。 コロナ過でもできる楽しみを探している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で行えなかった。	コロナ禍で外出支援は自粛している。利用者は居間でテレビを観たり、季節感ある桜を飾ったりしている。職員は少しでも花見気分を味わえるような昼食を作り、利用者の気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会を行っています。また、LINEタブレットでの面会を実施しております。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住みやすいリノベーションを考えながらテーブルの配置換えソファの配置換えなど行っております。四季折々に入居者様の作品等を飾り、季節感を共有しております。	共有空間は明るく清潔感があり、壁には職員と利用者が一緒に作った季節感のある装飾が飾られている。居間のソファやテーブルの配置換えをしながら気分転換等を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫を生かしながら居心地のよい教養空間づくりに努めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた持ち物などを持ってきていただいております。	居室には使い慣れた馴染みの持ち物と一緒に家族の写真を持ってきている。自分が作った作品も飾り居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	セーフティーマネジメントをカンファレンス毎に行っており、より安全に自分の力が出しやすい環境づくりに取り組んでおります。		